授業者　野村　彩夏　T2,小林　直也　T3,舘野　翔

５年１組 社会科　黛学級　　授業日　６月３０日（水）

「わたしたちの生活と食糧生産」

目指す児童に迫るための手立て

❶学びに応じた支援の工夫

・自分の考えに自信をもつことができる支援として、小集団活動を取り入れていく。

・資料調べや発表など友達がいることで自信をもち学習に取り組めるようにした。

➋興味関心をもたせる工夫

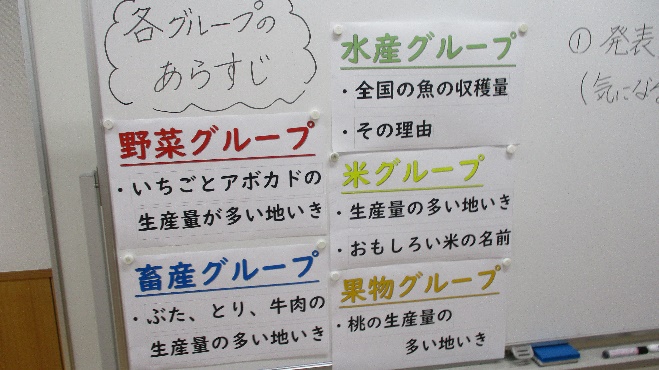
・スーパーのチラシやグラフの資料の提示、付箋の活用など視覚化による興味、関心を持たせる工夫を取り入れた。

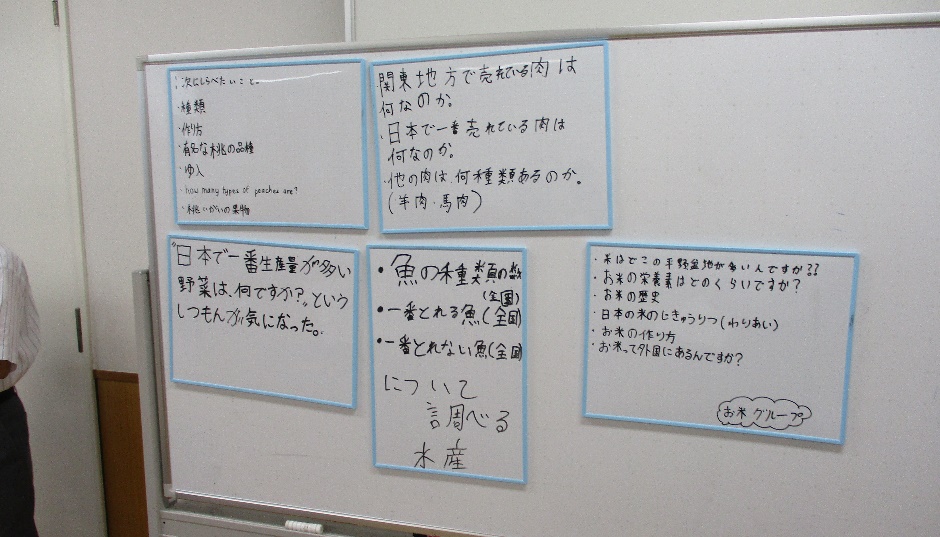
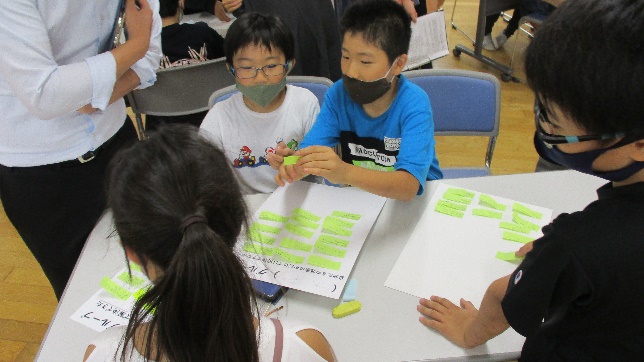
支援の工夫

・情報交換の工夫

・板書、ワークシート

・グループ編成の仕方





**情報交換**

聞き手は疑問に思ったことを付箋に書き留めておき、発表グループに渡す。

成果と課題

情報交換の際、付箋を用いたことで情報の選択や分類を容易に行うことができた。また、まとめでは他者からの疑問を取り入れ、更なる疑問を追究したいという意欲や、それぞれの項目にある産地についての興味や関心が次の小単元に向けての意欲となった。本時以降、次の小単元では各グループが取り上げた内容、更なる疑問について振り返りながら行ったことで理解が深まり、各々が主体的に取り組むことができた。結果として本時以降全体で学習したが、本小単元で必ず獲得しなければいけない知識については調べ学習の際に指導者が調べる項目の１つとして提示してもよかった。

付箋をもとに、各グループで他者からの疑問について協議し、更に調べたいことや疑問に感じたことについて全体で共有することで、次の小単元への興味・関心を広げた。

**疑問の共有**

**グループ協議**

項目を各自選択し

調べ学習を行う

本時まで

**各グループの発表**